

民事模擬裁判「ある男の一生」

【事案の概要】

鈴木二郎は、弁護士として活躍する43歳の男性である。

最近、テレビ等のメディアに多数出演、国民の間で、老若男女問わず、有名で人気がある。近く参議院議員に立候補する予定。

鈴木二郎の大学時代の友人である作家の五島由紀夫は、鈴木二郎の人気ぶりに目をつけ、鈴木二郎の経歴を参考にした小説を書き、週刊誌に連載された。それが好評であったため、単行本として出版することになった。

ところが、それを聞いた鈴木二郎は自分をモデルにしたと考えられるその小説の内容に不満があり、出版をやめるよう五島由紀夫を説得した。しかし、五島由紀夫はそれを聞き入れなかったため、鈴木二郎は裁判所に対して、出版の差し止めを求める訴えを提起した。

プライバシーの侵害だとして出版を止めさせたい鈴木二郎の主張と表現の自由を主張して自分の作品を出版したい五島由紀夫の主張のどちらを認めるべきか。

【鈴木二郎の経歴等】

- ・ 幼いころに父親を亡くし、母親がギャンブルにのめり込んで借金を重ねる
- ・ 幼少のころは貧乏な生活を送っていた
- ・ 10歳のころ、母親の借金のために自宅を差し押さえられ、母親の解散宣言と共に、家族と離ればなれになり、1ヵ月間公園で暮らしていた
- ・ 段ボールを食べて飢えをしのいだこともあった
- ・ その後、施設に引き取られた
- ・ 母親が窃盗罪で逮捕された
- ・ 貧しさ故に食生活が偏り、肥満体型のため中学校で同級生のいじめに遭う
- ・ 高校生のころ、一念発起し、アルバイトしながら、猛勉強とダイエット
- ・ 難関大学である北都大学法学部に合格し、体型もスマートに
- ・ 大学時代にケンカして傷害罪で逮捕され、起訴猶予になる
- ・ 大学4年生で、司法試験に合格、裁判官になる
- ・ 30歳で裁判官を辞め、アメリカのロースクールに進学し、アメリカ・ニューヨーク州の司法試験に合格
- ・ 現在、日本において国際弁護士として知的財産関係法の分野を中心に活躍
- ・ テレビのバラエティ番組等のマスメディアにも多数出演
- ・ 知的で端正な顔立ちであることから、有名女優との噂も絶えない
- ・ 次期参議院議員選挙において与党から出馬する予定
- ・ 大学入学時以前の経歴等は一切公表していない

【五島由紀夫の小説の内容】

～ ある男の一生 ～

主人公坂之上龍馬は、幼いころに母親を亡くし、父親がギャンブルにのめり込んで借金を重ねたため、幼少のころは貧乏な生活を送っていた。そして、10歳のころ、父親の借金のために自宅を差し押さえられ、父親の解散宣言と共に、家族と離ればなれになり、1ヵ月間公園で暮らしていたことがあった。その際、坂之上龍馬は、お金もなかったため、食べ物を買えず、段ボールを食べて飢えをしのいだ。

その後、坂之上龍馬は、施設に引き取られたが、父親が窃盗罪で逮捕されたことや、貧しさ故に食生活が偏り、かなりの肥満体型であったことなどで中学校の同級生からかなり酷いいじめにあった。

坂之上龍馬は、高校生のころ、このままでは自分の将来がダメになると考え、一念発起し、アルバイトしながら、猛勉強とダイエットをした。そして、南都大学法学部に合格し、体型もスマートになった。

坂之上龍馬は、大学3年生で、司法試験に合格し、2年間の司法修習を経て、裁判官に任官した。

その後、30歳で裁判官を退官した後、アメリカのロースクールに進学し、修士課程を修了。そしてアメリカ・カリフォルニア州の司法試験に合格して弁護士資格を取得し、日本において国際弁護士としてエンターテインメント関係法の分野を中心に活躍。

坂之上龍馬は、徐々に業務を拡大し、人脈を深め、大手企業の社長や大物政治家と交際するようになり、また、有名女優を含め数々の女性遍歴を経た。しかし、幼い頃から家族の愛を知らず、自分のためだけに必死に生きてきた坂之上龍馬は、父親、弟、妹とは全く連絡を取らず、一度も結婚することなく、その後も家族を持つことはなかった。

50歳になった坂之上龍馬は、政権を担当している俺様党から衆議院議員選挙に立候補し、見事当選する。5年後には総理大臣に就任し、数々の改革を打ち出して一時期国民の絶大な人気を得る。

ところが、秘書に裏切られて政界を追われ、失意の内に病床で自分の生きてきた道を思い返し、人はなぜ生きるのか、人間が生きて何なのか、自分の人生は何だったのか答えを見つけられないまま、誰にも看取られることなく、坂之上龍馬は一人息を引き取る。